

(国際) 三島小学校 3年

いろいろな国の人と仲良くなろう

4月～11月(55時間)

1 ねらい(単元目標・めざす子ども像)

3年	単元名	いろいろな国の人と仲良くなろう	ふれあい チャレンジ
単元目標 (子供に育てたい力)	<ul style="list-style-type: none">・外国の人とかかわる中で、それらの国の調べたいことを見つけたり、日本や外国のよさに気づいたりすることができる。・自分が選んだ国のことを理解するために、進んで調べる計画を立てたり、実際に調べたりすることができる。・自分で調べたことや、外国の人とのふれあいでわかったことをわかりやすくまとめ、みんなに知らせることができる。・選んだ国のことを自分から進んで調べたり、その国の人と積極的にふれあったりすることができる。		
育てたい力と 評価規準	育てたい力	評価規準	単元の評価規準
	見つける力	課題を選ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none">・調べる国を決定し、その国を理解するためにどんなことを調べるか決めることができる。・国を調べていく中で、新しい視点を見つけていくことができる。
	追究する力	自分で、もしくは友達と課題に合った調べ方や活動の仕方を選択し、実行できる。	<ul style="list-style-type: none">・どんな国かがわかるように、調べる項目と方法を自分で見つけ、追究することができる。・よい交流会にするために、必要な計画を考え、準備をすることができる。
	伝える力	調べたことや活動したことを思いや考えを交えてまとめ、伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none">・グループでの話し合いの中で、自分の考えを伝えることができる。・調べたことを、わかりやすく発表することができる。
	行動する力	自分から進んで、粘り強く調べたり、活動したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none">・活動を計画・準備したり、反省したりしてよりよい活動にしようとすることができる。
	人とかかわる力	友達と仲良く協力して、調べ学習や活動を進めることができる。 自分から進んで、人とかわりながら活動することができる。	<ul style="list-style-type: none">・友達と仲良く協力して活動を進めることができる。・自分から進んで外国の人や友達に声をかけ、楽しく活動に参加することができる。

2 実践の概要

(1) 「なかよし集会」(平成21年5月27日)

総合の授業での「ふれあい交流会」の練習として、「なかよし集会」を行った。学年で4人、司会役や進行役を選出し、体育館にて「どうぶつがりゲーム」(司会役が言った動物の名前の文字の数だけ集まってグループを作るという遊び)を行った。子供たちは、表情明るく楽しんでゲームを行っていた。3年生全体の友達の輪も広がったようである。

(2) 「第1回ふれあい交流会」(平成21年6月5日)

外国の方をお招きして、「第1回 ふれあい交流会」を行った。外国の方の発表を聞いた。台湾の方が、年獣(ねんじゅう)というお正月にあらわれる怪物の話をするので、全員が食い入るように話に聞き入っていた。その後、「どうぶつがりゲーム」を行った。グループを作ってから自己紹介をしあい、交流を深めることができた。

(3) 「第2回ふれあい交流会」(平成21年9月18日)

外国の「遊び」、「食べ物」、「いしょう」、「まつり」の4項目についてグループごとに調べ学習をし、発表を行った。発表練習の段階では、声が小さかったため、とにかく声を大きく出すように指導をした。声の大きさと合わせ、発表の完成度も指導のたびに向上していった。当日の発表は、外国の方が真剣に聞くことができるほど完成度が増していた。発表を終え、子供たちが調べた「外国の遊び」を実際に外国の方と遊ぶ中国のおにごっこなどは、鬼以外の人が一直線につながる。普段とは違うおにごっこに戸惑いながら、子供たちは遊んでいた。

(4) 「第3回ふれあい交流会」(平成21年11月6日)

今回のふれあい交流会では、交流に幅を持たせるために、それぞれの担当するグループの中で「かつどうグループ」(外国の遊びを行う)と、「ティータイムグループ」(外国の料理をする)に子供たちを分けた。それからやりたいことを決定し、調べ学習を行った。シミュレーションを行い、うまく活動ができるか確かめ、準備をして本番の交流会に臨んだ。中国のかつどうグループでは、衣装作り(チャイナドレス)をし、外国の方に来てもらう活動をし、大変喜ばれた。台湾のティータイムグループでは、「ねぎもち」を調理し、外国の方に好評であった。どのグループも、綿密なシミュレーションをしたことが活動に活かされていた。

教師の手だて(授業と交流活動全体を通して)

- 1 「ふれあい交流会」という、外国の方との交流の場を用意し、計画を丁寧に立てるようにする。リハーサルを綿密に行い、交流会当日に備える。
- 2 外国のことに関する資料を多く用意する。
- 3 調べる対象を限定し、徹底的にグループで調べ学習をする。
- 4 交流会や授業で学んだことをふりかえりカードに記入させ、次回の授業に反省点を活用する。
- 5 視聴覚機器を利用し、求める情報を探しやすくする。わかりやすい発表ができるように練習する。

3 実践を振り返って

1～3回の「ふれあい交流会」という場を設定することによって、総合学習で学んだことを検証することができた。また、図書館の本や、インターネットを用いて、目的の資料を数多く探すことができたことも大きい。さらに、授業で学んだことを「ふりかえりカード」に記入し、次回の交流に反省点を活用することができたことがよかった。反省文からは、回を増すごとに「外国のこんなところがわかってよかった。」など、より深い記述が見られるようになった。リハーサルの場を設けたことで、交流会の当日にどのように動けばいいのかわかると、子供たち自身が把握することができた。総合の授業全体を通して、子供たちの外国の方に対する接し方が優しくなってきたことが感じられる。